向陽新聞

高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　安田　正敏
発行人　井上　和幸
印刷　高知印刷

高橋
写真館
大丸東 ② 6758

問題のこる運動会
反対多いやぐら廃止案
だんだんとスタンド式に

◇◇ 十月二十七日の予定だった第十六回運動会は、雨のため十月二十九日に延期されて盛大に催された。黄組の優勝で幕を閉じた。今年はブラスバンド行進や白組のスタンド式のやぐらなど新しいものが登場したりするなど、昨年よりも一段とよくなってはいたが、やぐら廃止案や色分けなどの多くの問題があった。やぐらについて学校側では、最終的には生徒の意見を取り上げて結論を出すといっているが、新聞部と委員会の合同アンケートによれば、反対の声が圧倒的に多かった。今年は費用などの面からも考えて、やぐらを高三だけのものとしないで、高校全体のものとした。また色分けについては、緑に対する不満の声が多かった。中でも〝緑が損をしたようだった。〟という意見が目だった。◇◇

今年の色分けは、高一六クラス、中二、中一各々四クラス、その他の学年は五クラスという変則的なクラス編成のため非常にむつかしくたいへんもめたが、結局昨年通り五色に分け、中一、中二に架空のチームをつくり、高一の二クラスを一チームにまとめて、その合同チームの一・五倍を架空の組を含めたチームの中一、中二、高一の得点とするという非常に複雑な色わけとなった。そのために今年は中一、中二は、責任リレーに参加できず、高一合同チームからは各々のクラスの選手が一名ずつ参加した。このようなことからアンケートには高一合同チームの緑に対する不満の声がめだった。しかし一方では〝クラスメートがわかれないで良かった。また色の多い方が、紅白の二色よりももっとおもしろい〟などの声も比較的多かった。まとめてみると良いという意見は六六%で、悪いという意見の約2倍だった。

もう一つの大きな問題は、やぐら廃止案である。このおもな理由としては最近建築ブームのためにパネルや材木などの材料の不足、すぎしばの不足、費用が多くかかるなどいろいろあげられる。今までにもすぎしばを取りに行った車が故障をおこして帰りが遅くなり家庭から電話がかかってきたり、予約外の杉の木を刈ったりしたトラブルもある。これらのことから考えてみると廃止した方が良いのではないかというのが、学校側の一部の意見であるが、最終的には生徒の意見も取り入れて検討した結果を出すことになる。生徒側は、中学が反対九二%、賛成八%、高校が反対九十%と圧倒的に反対の意見が多い。中でも〝土佐の名物だから廃止するとさみしくなるし、灰色の学校生活の中でクラス全員が一つの目的に向って協力するという、この行事の持つ意味の重要さをもっと認識してもらいたい〟というのが一般的な意見であった。また高二Kホームでは、ホームルームの時間にやぐら廃止について討議した結果次のような意見をまとめた。

一、本校の運動会風景の伝統的特徴として是非結けて欲しい。
二、色別による中一—高三までの縦のつながりのシンボルである。
やぐらを除いた運動会では、色別による得点争いの興味が半減する。
三、運動会の盛り上りのムードはやぐらによって作られる。
四、高三にとっては、学生生活最後の運動会だからより楽しく、より盛大にやりたい。そのためにはやぐらは不可欠。
五、やぐらの創作に各クラス一致団結してあたるので、協調性やクラスの和を産む好い機会である。
六、生涯こんな大きなものを作る機会はまずないので、その機会を与えて欲しい。
七、残りの飾り付けはファイヤーストームに使える利点がある。

以上であるが、これらのことから、学校としてはこの生徒の強力な反対を押し切って廃止にまでこぎつけるのは、まず不可能であり、そこまでやるという強い意志もないようである。

今年の運動会で、注目を集めたのは白組のスタンド式のやぐらだった。今までのヤグラの形と全然異なっていて、パネルを階段のようにおいて、上段後方にディズニーのドナルドダックの漫画を書いたものである。こうすれば心配されていいる危険性も多少なくなって白組の大部分の人が座れて、中一から高三までの縦のつながりもでき、応援もたいへんよくまとまるなど多くの利点も出てくる。このため学校側でもできることなら全部のやぐらをこういう型にしていきたいといっている。

そのほか、仮装行列、ホームゲームファイヤーストームなどについては、良くも悪くもないという意見が多かった。しかし今年の仮装行列は、高二があまり積極的でなかったため、生彩を欠いたが、それにしてもあまりにも変りばえがしなかったというのが、一般的な意見だった。もっと風刺したものを期待するという声も聞かれた。

曽我部校長先生談

やぐら廃止については、一応意見として出ているが、具体的なものは何もない。ただ高校生にしては少し金がかかりすぎるしパネルなどの材料も不足していて非常に手間がかかる。しかし生徒の意見も多く聞きいれて、具体的な対策をたてるつもりだ。

高一M君談

とにかく絶対反対だ！やぐらをスタンド式にすれば、利用価値も高くなるので、できるだけそうしてもらいたい。

スタンド式やぐらで応援する白組

主張
やめよう部室の休み時間使用
生徒の今一度の自粛を

現在、朝と放課後以外は誰も部室にはいらないという部が、一つでもあるだろうか。体育の時間の着替えを部室でしているのをよくみかけるし、休み時間にたむろしてダベッたり、図画習字等の用具の出し入れや、ひどい部では部室で弁当を食べているところもある。このような部室のあやまった使用からそれでなくても余りよくない部室管理が、益々悪くなり、ひいては盗難のおこる原因ともなっているようである。

学校側は主任や顧問の先生方を通じて再三再四、「休み時間には部室にはいらぬように」と注意してきているがその理由については一言もふれていない。そこで、新聞部では生徒部の高橋先生にその理由を尋ねてみたところ「過去に授業からエスケープした者が、部室に隠れるといったケースがあったので、それを防ぐため」「私有物を部室に置いてあるための出入りが多いが、これは部室が公共的なものであるので好ましくないし、部に所属していない者に対して不公平である」の二点がその理由ということである。が、このような理由がありながら、なぜ先生方は理由を明示せずに、「部室にはいるナ」と、頭ごなしの勧告だけを行うのだろうか。このような学校側の態度に、何か釈然としないものを感じ、一種の反発のようなものを覚える者もあるだろう。我々はこうした学校側の注意のしかたに大いに疑問を持っている。また学校側の提示した理由の中には、現状に即しないものがある。「部室に私有物を置くのは好ましくない」がそれである。確かに余りよくないことは認めるが、習字工作・図画等の用具は教室におけば、かなりの場所をとって邪魔になるし、また持ち帰るとしても、なかなか大変である。帰りが遅くなる上に、相当疲れている部員にとって、それらの用具を部室に置くことができれば非常に助かる。私物を部室に置くことは、現状では認めてもらうほかはないと思うがどうだろうか。が、その他の部活動以外の目的のために、部室を使用するのはよくない。部室は本来部活動を行なうために設けられているものだからである。

また学校側の再三の通達に対して、生徒側から公然とした反対の声がないのは「部室は休み時間に使うべきではない」ということを、一応了解しているからであろうとも思われるのだが、平気で部室にはいっている。これはズウズウしいというほかはない。このズウズウしさに対して、学側は「生徒の自覚にまかせるよりない」といっているだけで、一向に具体的な対策を示さないのだから無責任も甚だしい。学校側はもっと積極的に、やめさせるべきだ。

また生徒も干渉しないからといって、平気で部室にはいっているようではダメだ。自分達からやめていくべきである。生徒各自はもっと自粛すべきである。新聞部では自覚・責任・自粛等の言葉を用いて、生徒各自が色々な問題を、自分達から解決していくように、呼びかけてきたが、一向に改まる様子がみえないのは残念だ。今一度自分達の手で、このだらけかかっている学園を、たてなおすようにしようではないか。

ここで、部室管理の一方法を提案したい。それは、部室管理の全責任を部長に委ね、もっと権限を持たせるということである。部長はその権限によって、部員が休み時間に部室にはいる必要がないように、朝のうちにその日の授業に必要な物を、教室に持っていくようにさせ、キチンと錠をかけなければならない。こうすれば、休み時間に部室にはいることはできなくなるわけだ。

前回にも〝規律ある正しい生活を〟と、この主張で述べたが今回はもっと具体的な、かつごく身近な〝部室問題〟をとりあげて、もう一度生徒の自覚・責任・自粛を呼びかけた次第である。現在の土佐校の気風は余りにもしまりのない、いい加減なものになっている。このさい、こういう気分を刷新するためにも、このような身近な、しかもいい加減に扱われている問題から、一つ一つ解決していくように、学校ならびに生徒諸君におねがいしたい。

初めてとしては上出来
理科三部が合同発表会

去る十一月十一日と十四日の放課後、生物室において第一回理科三部合同研究発表会が開かれた。

これは、文化部唯一の発表会である文化祭の展示会が今年は中止されることになったので、理科三部が協議して、生徒の理科課外活動に対する興味と関心を高める目的で開かれたものである。

発表内容は、野鳥の保護（川村貞夫—高二）、佐川・高知両地区の甲虫分類（大山政宏—高一）、高知県東部の羊歯植物分類（山本幸憲—高二）、淡水産のハゼについて（岡田知己—高一）、ミョウバンを中心とした結晶の研究（藤村民雄・大久保慶一—中一）、浦戸湾の塩素（吉川博文—高二）、シリコーン樹脂とその合成・応用（宗光敏章—中三）、簡単な加速度の求め方（鍋島康夫—高二）、金のいらない電池（岩下啓史—高二）の以上九項目で、これらは皆長期間にわたり忍耐強く詳細に研究されており、日頃の研究成果を発揮していた。発表会に参加した者は、二日間を通じて百五十名ばかりで、中学生が多かったせいか化学や物理は、むずかしい専門用語が出て来てわからなかったという意見が多く、質問していたのは高校の上級生だけだった。一方生物は研究のテーマが鳥・魚・植物など身近なものであり、誰にでもわかることが多かったので、他の部より人気があった。発表者は所々にユーモアも交えて熱弁を振っていたが、声が小さかったという意見も聞かれた。発表後、引続いて理科三部の顧問の先生方の講評と西野教頭の総評があり、第一回理科三部合同研究発表会は閉会された。

各部顧問講評

第一回目としては上出来でしたが、まだいろいろな点で工夫すべき所がたくさんあったようです。研究のテーマを身近かなものから提起したのは良いが、もっと掘り下げて研究してほしい物もありました。

西野教頭先生総評

今回の発表会は部側が積極的に活動して開いたという点で非常によかったと思いますが、もともと行事予定になかったことなので、期日の面で多少無理があった。これからは発表会を有意義なものにするため、もし部側で発表会をする希望があれば速やかに連絡して頂きたい。そうすれば実現できるよう努力するつもりです。

川崎・宇田両氏の墓へ参拝
—今年の開校記念日—

去る十一月十八日、午前九時頃から本校の創立者、川崎幾三郎、宇田友四郎両氏の墓参が行なわれた。

高知市高見の高見山の川崎氏の墓には、校長先生、西野先生の二人が、生徒十人の掃除した後に墓参した。香美郡赤岡町岸本の宇田氏にも、生徒十数人が掃除した後に、瀬戸先生、西先生の二人が参拝した。きれいに掃除された後には、菊などの花がかざられ、線香の煙が、漂っていた。

高一X君談

今まで開校記念日といえば、文化祭や休みのみであって、開校を記念するという意志がうかがえず、改正しなければいけないだろうと思っていたが、今回のようなことが、実行されたことは非常によろこばしく思われた。これからは開校記念日の本当の意味を考え、有意義に過してはどうだろうか。

西野先生談

今年は、文化祭が行なわれなかったので、改めて開校記念日の意義を考えなければいけなくなった。そこでこのようなことを行った。

ひとこと
A君の見たチームの姿

○…A君は土佐高一年生、現在ある運動部に入っている。中二の頃友を求めて勧誘されるままに入部し、練習に試合にこの二年間全力を尽してきた。だが最近ずっと彼はその部を続けた方が良いか、あっさりやめてしまう方が良いか非常に深刻になって悩んでいる。

○…というのは、この前急に自分の満足していたポジションからはずされた。そこに（A君の見かたによると）自分かってな横暴な奴が落ちつくことになったのである。A君は今度のポジションはたいして好きでもなくレギュラーメンバーから外されるおそれもでてきた。その上そのポジションは今まで補欠であったB君がやっと試合のメンバーとして組み入れられようとしている。B君にとっては希望のポジションでもあった。

○…彼はその不満や悩みを部室内で話したり、同じ部員に打ちあけて考えてもらおうとしなかった。そのクラブ自体それに応ずることができる雰囲気ではなかったのだ。チームの大黒柱であるはずのキャプテンさえもある日の部会でうやむやのうちに決まってしまった状態である。もちろんA君から見れば彼はキャプテンとしての人望もなかったし、ただ押しが強く我がままを通す力が強いだけだった。

○…当然の義務として運動部の義務として運動部々員はそのチームが強くなるためには多少の自己犠牲も喜こんではらうという気持が要求される。しかしあくまでも部員一人一人の意見は真剣に聞かれるべきである。A君の目はすべてを客観的に判断していると言い難いが、少くともこれは事実本校の一運動部内の状態であり、チームワークを根本精神とするスポーツチームの一つの見えざる本当の姿ではないだろうか。

○…十一月十三日、本校野球部が世間からは難しいと言われていた決勝戦で安芸高チームを破り堂々県下優勝をかち得たのもそこにどんな窮地においこまれてもひるまない精神と団結力、即ちすばらしいチームワークがあったからである。

○…現在運動部でレギュラーとして活動している者も、ベンチを暖める状態にある者も、さらにA君のような問題がありはしないか。現在のチームの状態は最高か、何か不備な点、不満な点はないか考える機会を持ってほしいものである。それに月に一—二回はそんな問題について顧問の先生を交えて部会を開き惜しみなく話し合ってみてはどうか。

○…最後に、この問題は運動部内だけで考えて解決されるべきものではないことを強調しておきたい。（T）

校内短信

○森本先生はぜんそくのため、十一月四日から十七日まで休んでおられた。

○平林先生は十一月十九日から病気のため休んでおられる。

○十一月十六・十七日の二日間にわたり高校二・三年生を対象とした能力検定試験が実施された。

らくがき

▼「山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思えば」源宗干（むねゆき）寒さも日ましに厳しくなっていく師走に突入した。風のピューピュー吹きすさぶオンボロ校舎に居るのも今日かぎりで、期末考査も終わり明日からは冬休み。サンタクロースの南下の後には鐘が百八つなってそれで今年は終ります。そして楽しい正月となります。▼さて、こんな季節に〝読書〟などという言葉を聞くと何か場違いの感じがしないでもない。しかし〝読書の秋〟という言葉は、何も読書は秋だけにするものだということでは勿論ないし、冬というのは読書に適した条件を備えてもいるのである。まずこの寒さというのは頭脳を刺激するので精神活動には良いということは大脳生理学の上からも認められている。また冬というのは日没が大変早いので、部活動している者も自然、家にいる時間が長くなる。秋はともすればスポーツの方に気を取られがちなのを考えると〝読書の秋〟というのは〝読書の冬〟となって然るべきかも知れない▼読書の秋冬談義はそれぐらいにしても、とにかく読書は悪いことではないのは確かだろう。（ただ、今問題になっている悪質な雑誌などは別であるが…。）現在は文化が発達し、娯楽には事欠かないし、テレビなどがあるため一日二十四時しかないものがどうしても制限されることになる。昔のように暇にまかせて、一日中本にかじりついている訳には、とてもじゃないができっこない。その上、現在は多種多様の本がみちあふれているので通り一ぺんの教養を身につけるのでさえ骨の折れることである。だからといって締めてしまって本を読む気力を失ってしまうのは情ない。制限されたなら制限されたでなんとかその中から時間を絞り出そう。チューブ入りの歯みがきは、中身がなくなってしまったようでも、押しつぶすとまだ二三回は使える▼Lの時間など、図書館を利用しているのを見ていると、問題集にかぶりついて、図書館のもので利用しているのは机と椅子だけなんてのが多い。これで大丈夫なのかナ。ディズレーリいわく、「たった一冊の本しか読んだことのない人間を警戒せよ」この言葉は、一つの意見にこり固まってしまってはイケないということなのであろうが、とにかく皆さん、本を出来るだけ沢山読もう。本を読んで得することがあっても損することはない。

定期的に行いたい!!
文化部発表会開かれる

十一月三十日に本校体育館でブラスバンド部、舞踊部、音楽部が参加し文化部発表会が開かれた。

これはブラスバンド部が中心となって他の部に呼びかけ、今回初めての試みとして開かれたもので運動部は割合に存在を多くの人に知ってもらうことができるが、文化部には三学期に文化祭があるのみなので文化部としても部の存在を強く印象付け、普段の練習、そしてその成果の多くをよりたくさんの人に知ってもらうということが主旨である。また三学期になると高三生が出席できないということも二学期に開かれた理由であった。

今回は初めての試みであっただけに予算、小道具などについて学校側との交渉がかなり難行していたもようであった。

ブラスバンド部々長談

例年であれば二学期に文化祭があるはずだが能研があってできなかった。しかし私たちほいつものように二学期中にやりたかった。そこで他の部によびかけてやろうということになったのです。それにこういう行事なら毎年やりたいですね。発表会をやってそれに出場することは僕達の夢ですから、だからその意味でも大いに奨励します。

舞踊部顧問談

毎日部員が懸命に練習しているのでその成果を発表したいと前々から思っていたところヘタイミング良くブラスバンド部の誘いがあって、部員も張り切っていた。このような行事が定期的に開かれると練習などもやりがいがあるから大いに続けていただきたい。

大部分は非協力的
各施設に良書を送る

十一月九日、私立五校懇談会が土佐女子高校において開かれ、その席上で学芸高校から、市内の各施設に良書を送ったらどうかという意見が出され、全校が協力することになった。各校とも、生徒委員会が中心となって集め、それを一度、学芸高校にまとめて、クリスマスに、プレゼントとして、各施設に分配することになった。本校でも、十一月の上旬から、生徒に呼びかけ、去る十一月二十八日に締切ったが、集り具合が、他校に比べて悪く、生徒の大部分の人が、非協力的であったことを物語っていた。しかし、その反面、協力的な人は本を数冊も、持参してきたりして、暖い面も見られた。

委員会が市内のある施設にいったところ、本らしい本もなく、小学三年から中学三年までの子供が読むにはあまりにも少く、一人一冊にも満たなかった。また、現在ある本も、奪い合いや、何回も読まれたためか、手あかがつき、表紙の行くさき不明であったりした。そして、辞書類がほとんどなく、勉学にいそしむことが出来ないような、みじめな状態であったそうだ。しかし、ある学園では、壁がくずれていたり、電灯がつかなかったりしていて、本よりも、もう少し実用的なものがほしい」とうったえていた。

本校生徒内でも、本を送ることは、毎年毎年行っていて、一種の恒例のようになっているし、あまり変化がない、もっと積極的に労働奉仕などをする必要がないだろうか、というような意見も見られる。

岡上委員長談

毎年行っている〝施設に本を送ろう運動〟を今年も行うことになったが、相変らず生徒の協力が少くまだ昨年ほど集っていない。もっと協力的になってほしい。また生徒がいっていた労働奉仕なども考えているが、まだ具体的な案はでていない。しかし、遊び用具を送ったりすることなどを考えている。その時は生徒にも協力してもらいたい。

中三修学旅行コースきまる
来年は北九州・山陽へ
最終決定は一月に

来年度の中三の修学旅行は、従来の関西方面行きをやめて、北九州・山陽方面に行くことになった。

これは、現在の中二に「来年の修学旅行は、関西と北九州とどちらに行きたいか」というアンケートをとったところ、北九州方面行きを希望する生徒が圧倒的に多かったためである。この北九州行きのコースは今年の高二と反対で、まず高松まで汽車で行き、それから船で別府に渡り、阿蘇、熊本などを見物し、宮島を回って汽車で高知に帰ってくるというもので、五泊六日の予定である。

この日程の最終的な決定は、来年の一月頃とのことで、これはあくまで現在の中二だけの案であるこれからもアンケートをとってみて、希望が多ければかえることもあるそうだ。

ナショナル
電気器具は
京町
穂積電業社
TEL ② 6646

セイコー高知特約店
大西時計店
高知市帯屋町1丁目 TEL ② 1366

イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町 電②0998番

ヒフ病薬　新薬は
はりまや薬局
はりまや橋四国銀行本店前 TEL ② 2665

御菓子の
浜幸
高知市はりまや橋 TEL ② 一六四一

辞書・参考書
ザッシ
螢雪時代
高校時代　予約承ります
中学時代
明文堂

楽しい学生生活の記録を
あなたのアルバムに残しましょう
キタムラカメラ
堺町 19 TEL ② 3154〜6

男女制服御誂
男女既製服
高知学服（入交）
中の橋電停前
TEL ②1776
TEL ②2744

県大会・四国大会 十一年振り三度目の優勝 甲子園出場は確定的

全校こぞっての応援が勝因

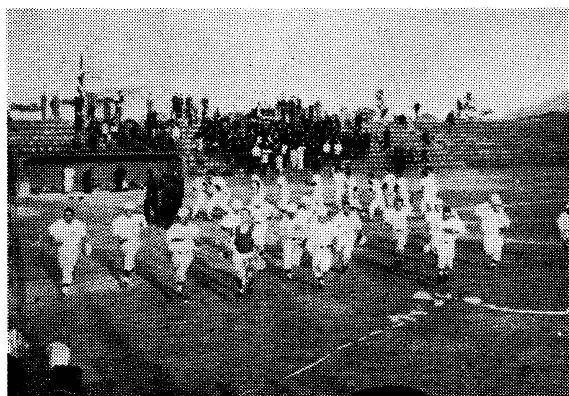
無欲で相手にぶつかる

◇…四国地区秋季高校野球決勝戦は十一月二十六日徳島県営蔵本球場において、本校と安芸高との…◇
◇…間に行われ、延長十六回の末四対三で安芸を下し、三度目の優勝を遂げた。…◇
◇…これで、来春行われる選抜高校野球に本校が出場する事は確定的となった。…◇
◇…県大会に高知高を破ってからは尻上がりに調子を上げ、試合前、非力だといわれたのをふっと…◇
◇…ばし県大会、四国大会共に優勝を手にしたのは、監督の采配の下、チームが一丸となって相手…◇
◇…にぶつかっていったからである。…◇
◇…この力をもってして甲子園でも、先輩の名を汚さず頑張ってもらいたいものである。…◇

本年度秋季高校野球大会の県大会は十一月八日より高知市営球場において行われた。本校は小津、室戸を八対一、十二対〇とどちらもコールドゲームで下し準決勝にコマを進めた。準決勝は優勝候補ナンバーワンで本校はここ数年来敗け続けの宿敵高知高を接戦の末ついに二対一で破った。これで四国大会出場権を得て、意気上がった本校は、十三日行われた優勝戦は全校くり出しての応援のもとに安芸高を二対一と下し、昭和二十七年以来実に十一年振り三度目の優勝を遂げた。

四国大会は十一月二十二日より徳島県営蔵本球場において、高知県からは本校と準優勝の安芸高、香川県からは丸亀高と坂出商、愛媛県からは壬生川高と新居浜商、地元徳島県からは海南高と徳島工が出場して行われた。

抽選の結果、本校は一回戦に新居浜商と対戦、二十三日午前十時より試合が行われ、はるばる高知から応援にかけつけた数十人の生徒の声援のもと九対一で快勝。明くる二十四日は徳島工を破った坂出高と午後一より対戦。本校と坂出高のくり出すバトンガールやブラスバンドがにぎやかにくり出す中で、これまた打棒大いにふるい八対一で破り優勝戦に出場する事になった。優勝戦は奇しくも同じ高知県代表、県大会で破っている安芸高と対戦する事になった。二十五日は雨だったため、選手達は宿舎である寺島旅館で休養し、隣の旅館に泊っている安芸高の溝渕監督や選手達と共に明日に備えた。



二十六日、海南高と坂出高との間で行われた三位決定戦のあと、午後一時より決勝戦が行われた。応援の人も少い中で両校ともゆずらず、延長十五回まで三対三の均衡を保っていったが十六回の表本校は一点をあげ、その裏安芸に得点を許さず日没まぎわ四対三で勝利を握った。これは県大会と同じく十一年振り三度目の栄冠である

県大会、四国大会を振り返って九月からチームを引受けこの快挙をなし遂げた籠尾監督と吉井主将と島村投手に感想を伺った。

籠尾監督談

まず県大会で優勝出来たのは第一に学校中が一団となって応援してくれた事。第二に山本先生(前監督)がチーム作りをよくしていてくれた事。第三に甲子園で準優勝という伝統があったから。最後に無欲で相手にぶつかっていった事。四国大会は調子は絶好調で、予想外の大量得点は、相手を完全に自分のペースに巻き込み捨身の戦法で強引なプレーをしたからだと思う。

吉井主将談

監督さんの好采配があり、チームワークが良かったから勝てたのだと思います。

島村投手談

やっぱり一番うれしかったのは高知に勝った時ですネ。

総合してみると、今回の壮挙は全校生徒の応援のもと、監督の好采配によって、選手が無欲にチームプーに徹した事が最大の要素となっている。その他、対高知戦の前に急きょ慶大四年在学中の先輩浜中さんを呼び返し、コーチとして選手の指導にあたってもらった事も忘れる事が出来ない。

四度目の甲子園出場

先輩の名を汚さず

本校は過去三度甲子園の土を踏んでいる。その内訳は春二回、夏一回であり、昭和二十八年第三十五回夏の大会はまだ記憶に生々しい。本校は中京商、浪商という名門をなぎ倒し、優勝戦に出場したが、松山商に、終止おし気味であったにもかかわらず延長十三回の末三対二で涙をのんだ。この試合は高校野球育ての親、飛田穂州氏をして、一番印象に残っている名勝負と言わしめた程である。この輝かしい伝統が今回の壮挙に寄与している事は疑うべくもない。

現在野球部は、十一月二十七日帰高して以来、雨の日も休まず練習に励んでいる。春の選抜にはぜひとも頑張ってもらいたいものである。そこで籠尾監督に甲子園への抱負を伺ってみた。「エー、甲子園では、先輩の名を汚さずに負けてもいいから持てる力をフルに出し切って相手にぶつかる事ですね。」練習に忙しい吉井主将をつかまえて同じく抱負を聞いてみると「まだはっきり甲子園へ出られる訳ぢゃありませんが、もし選抜されたら普段練習している事をそのまま甲子園でも発揮するだけです。」と遠慮がちに語った。

混乱状態の自転車問題

早急に解決を！

今年の四月に学校側より自転車に関して、「本校より二キロメートル以内の者は自転車に乗って来てはいけない。新しく設けた禁止区域には自転車を置かないこと」の二つの通告が出された。しかしこの規則も現在では少しも守られてなく、禁止区域の立札は消え、二キロメートル以内の者も平気で自転車に乗って来るなど相変らずの状態である。このため自転車は校内のあちこちに散乱し、通行や自転車の出し入れに非常な邪魔となっている。本校では自転車置場内に、屋根の下には三百台ぐらい野ざらしのものも合せると七百台位いの自転車が収容できるようであるが、四月に調べた時は八百台ぐらいだった自転車数が今では一千台近くに増加し、まったくもとの状態にかえってしまっている。

この弊害は九月に行なわれた火事避難訓練に如実に示された。禁止区域に並べられた自転車は避難に際して逃げ道をふさぎ、またけが人をつくる結果にもなり得ない状態であった。そのため「万一の時は一命にもかかわる。」という非難の声もかなり聞かれた。しかし、このような障害のあるにもかかわらず自転車の利用数は依然として減少しない。その理由としては″便利さ″が第一に上げられる。限られた休み時間に新グラウンドに行くのにはこれは最良の手段であるとの声があり事実、この際の自転車の利用度はかなり高く二キロメートル以内の人の中にも体育のある日だけ乗って来ているという例もある。

学校側ではこの対策として自転車置場の増設を考えていたようであるが、何分にも場所がないためこの案も今では断念された状態である。そうかといって生徒側の協力も今のままでは到底望める状態ではないし、一部には「規則の内容の充実をはかり、もっと徹底させるべきだ。」との意見もあがっている。なお学芸高校では自転車の使用に許可証制を設けて成果をあげているそうである。

高崎先生談

結局は増設がいちばんいいんだが場所がないのでどうもね。一度校長にお話ししたが、その時には近くの者は歩けということだった。僕としては生徒諸君の自覚を望みたかったのだがやっぱりだめだったようだ。しかしとにかく早急に解決策を施したい。

ちょっと失礼

小松博行先生の巻

″雑学″この偉大な読書歴

漱石に傾倒する

先生のお部屋に通されて、記者一同ビックリした。大きい書棚が三つもあって、中はもちろん本でギッシリ。本はオマケに畳の上にも溢れている。一同しばしアゼン。圧倒されて緊張して、ガラにもなくカシコマっていると、先生は見るに見かねたのか「楽にしていいよ」とおっしゃられた。

先生のお生れは日本国大阪。土佐校に入学してその後卒業して、京都帝国大学で経済学を専攻。戦争に引っ張り込まれて戦争が済んで昭和二十二年より本校の教員となられた。「僕が教師となった頃は土佐校の生徒はもっとノンビリしていたように思うがねえ。どうも今の生徒は何かに追いたてられているというような感じがするね」と古き良き時代を思い出される。しかし、また一面では我々に同情の意見も持って下さる。「今の君たちは何かと忙しいだろうからねえ。本も読まなきゃあいかんし、テレビを見る時間だっているしね」なにしろ先生のお若い頃は娯楽の時間といえばラジオを聞くぐらいでわりあい暇だったそうだから実にうらやましい限りの話である。

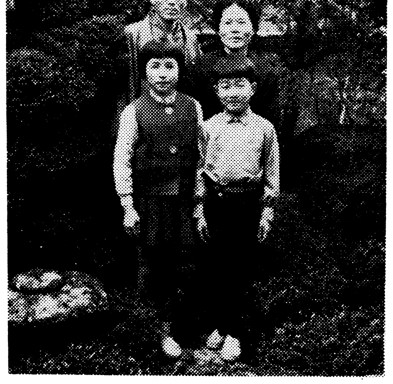
先生の本棚を見回していると一冊の本が目についた。「先生は鞍馬天狗を読みましたか」とお尋ねすると「ああ読んだよおもしろかったね。あんな本ならほかにも大分読んだもんだよ」とおっしゃられた。それから「しかし大衆小説でも吉川英治の宮本武蔵なんかはぜひ読んでおきなさい。将来きっと何かの役に立つよ」と指示までして下さった。いろいろのお話をうかがってみると先生は書物には非常に明るいらしい。そこで記者は先生の読書歴をお尋ねしてみた。「僕は学生時代に漱石に傾倒してねえ。ずいぶん読みあさったもんだよ」漱石の影響は今でも多分に受けておられるそうである。そう思って見てみると先生の落ち着いた和服姿までが漱石の影響のように見えるから不思議だ。先生はまた漱石の弟子の作品も読んだとおっしゃられる。「漱石の門下には森田草平、阿部次郎、鈴木三重吉、それから寺田寅彦などがいたね」と指折って数え上げる。

「おもしろいことには漱石の弟子には文学者が案外いないんだね。阿部次郎だって哲学者、寺田寅彦も科学者だし…」と先生はふしぎそうな表情を見せる。記者一同も何か漱石に興味が湧いて来た。「先生、僕たちが漱石の本を読んでよく内容の判らない所があるんですが…」「ウーン、そうだね。しかし、君たちはそれほど急いで判る必要はないと思うよ。恐らく現在漱石の文章をはっきりと理解できる人はあまりいないんじゃないだろうか。だから僕にはとても漱石の文章を全部解釈することはできんよ」と先生は控え目に話される。「文章というものは年によって、時によって感じ方が変るものだね。だから一度読んだ本でもまたいつか読み直してみることが必要だと思うね。そして、その時に何かを感じることができたらそれでいいんじゃないだろうか」

「小説というものはね。実際のところよほど経験がないと書けるもんじゃないと思うよ。だから小説家には変った人が多いんじゃないかな。中には十幾つという職業にたずさわった人もいるしね」記者一同、十幾つという職業を想像してみて驚いてしまった。「何ごとによらず経験というものも貴重だね。僕なんかは経験がほんとうに浅くてねえ」とちょっとタメイキまじりの声を出される。しかし今までお話をうかがってみて、先生にはそんな感じなど少しも見当らない。それどころか先生のお話の範囲は極めて広い。矛盾を感じて記者は考え込んでしまった。「僕は本を読てのが好きでねえ。いつも家内に「読みもしないのにまた本を買って来て」と怒られるんだが、きょうも頼んでおいた本が来ていたので」といって先生は新しい本を見せて下さった。そういえば先生の本棚にはありとあらゆる種類の本が見える。哲学、文学、倫理学、評論集から一般の世俗に関する本まで、まったく″人生″の集大成のような感じである。一同、改めて感心してしまってやっと先生の広い知識の原因が理解できた気がした。そして先生の話される″雑学″の必要性も何となく判ったような感じがして来た。最後に先生は記者のために、先生がかって愛読したという阿部次郎の″三太郎の日記″や三木清の″人生論ノート″などを選んで下さった。

夕焼け小焼けで日が暮れて。宵闇せまる夕方六時、記者一同先生から頂いた貫録ある五冊の本を抱えて先生のお宅を出た。先生はバスの停留所まで送って下さった。

(K・T生)



一家揃つて小さなお庭で

すぽっと

ストーリーのない小説

趣味は漫画

倉橋由美子さん

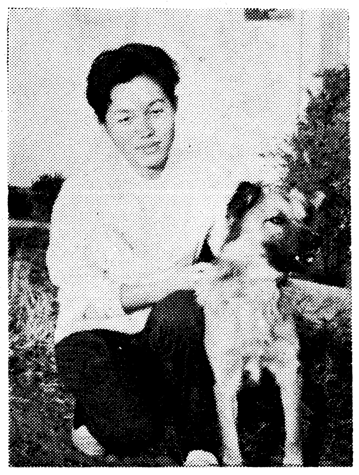
学生時代に″パルタイ″でデビュー、現在新進作家として活躍中の倉橋由美子さんを、土佐山田のお宅に訪ねた。

倉橋さんはその容貌にどことなくひきしまったものを感じるだが、決してこわいというのではない。記者の質問に対しても、非常に親しみ深く答えてくれた。

「私が入学したのは、学区制が変ってから、二年ぐらいだったと思うわ。だから、『これからだ』といういい意欲をもって、大いに勉強してたわ」と、土佐校時代の印象を語ってくれた。

倉橋さんが大学にいって感じたことは、よく遊ぶということだそうだ。「どうしてあんなに遊ぶのかな。朝までマージャンをやったり、デモ・デモと出がけていったり、ほとんど授業をうけないのよ」なんのために大学にはいったのか、全然わからないそうだ。「あなた達も、進学が望みでしょうけど、ただ漠然と人がいくから、僕もいくではだめよ。」とさとされた。

倉橋さんが創作を始めたのは大学にはいってからだそうだ。それまでは創作など、全然やったことがなく、文を書くというのも、小学校の頃から書いている日記だけだったそうだ。だがその日記が変っている。普通の一人称形式ではなく、三人称で書いていたそうだ。「だけど平分遊びのつもりだったのよ」と倉橋さんはいうが、文学者としての才能は、生れつき持っていたのであろう。創作を始めた動機について尋ねると、「そうね私は小さい頃から、かなり本を読んでいたけど、その時『私もこういう風に書いてみたいなあ』と思いながら読んでたの だから書くことは好きだったのね。それと、大学にはいってから暇ができたことね」と二つをあげてくれた。だが、「私もこんな風に書きたい」と思いながら、本を読むとは、倉橋さん独特のものだろう。



倉橋由美子さんと愛犬

「あなたは、どうして本を読むの」と逆に質問されて、「その本の筋がおもしろいから」と答える。「ストーリーのおもしろさにひかれるのね。たしかにそれもあるわ。あなたはどう」と別の記者に尋ねる。「私は、本の中にある何かを得ようと思って」と答えると、「あなたのは学校で教える読み方ね。だけどそれだと本なんておもしろくないでしょう。そんな読み方をするから、本を読む人って少ないのよ」と痛烈だ。「だけど、何かを読みとろうという気持で読んでこそそこにあるもの例えばテーマといったものが、吸収されるのでは」と、記者の一人が反論すると、「そうね確かにそうよ。今までの小説だと、テーマがあったのね。だけど現在フランスなどで書かれている″アンチロマン″には、テーマなんてないの、ストーリーだってないのよ」ストーリーのない小説記者一同びっくりする。「アンチっていうのは、打消しの言葉でしょう。ロマンってのは長編小説のことでしょう。だから今までの小説とは全然違うの。例えば私の好きな小説家のフランツ・カフカ、彼の小説の″審判″というのは、主人公が朝起きると警察につかまるの。だけど、どうしてつかまったかわからない。それは最後までわからず、結局彼は裁判で死刑に決まるの。ストーリーといえばこんなものだけど、いわゆるストーリーとは全然違うわね。だから普通の人が読んだら全く馬鹿馬鹿しく、つまらないものなのねこの小説の解釈には色々な説があるけど、これだと思われるものはないの。読む人によって受けとり方が違うのね。抽象画だってそうでしょう。見る人によって、受け取り方が違ってるでしょう。だけど共感は一つだと思うわ。だから、いい絵はいい絵として認められるものね」ここまでくると記者の頭は混沌としてくる。「わからないかな？」と、倉橋さんはにこやかに笑われたが…。

話題を転じて、趣味を尋ねるといい「漫画を読むこと」だそうだ。「このこと始めのうちは、隠していたの。だって大人が漫画を読むなんてね…。だけど、北杜夫さんの家にいったら、本棚にぎっしり漫画をおいてあるの。それで安心して、それからは堂々と発表しているのよ」とのことである。

(T・M)

××××

今度このスポットを設けたのは我々の先輩は土佐校を卒業して世の中にでていったいどうしているかという疑問に答えるためです。社会の第一線で活躍している人、平々凡々に世の中を暮らしている人もあるでしょう。だが、どんな人にでも、その人独特の人生・生き方・考え方というようなものがあるでしょう。このスポットを読んで、それがくみとれれば幸いです。

オリンピック休暇案

大部分が賛成

第十八回オリンピック東京大会は一九六四年十月十日から二週間にわたって、国立競技場を中心とし開催される。この世紀の祭典を立派なものにしようと、国をあげて前仕度にとりかかっている。本校においても、見に行きたいとか行けなくてもテレビなどで見たいなど、いろいろうわさの種になっている。そこで、ある日数だけオリンピック休暇を設けて先生や生徒にオリンピックを見てもらおうという案が職員会において検討されている。このように早くから検討されている理由は、オリンピックの入場券を買う必要があるとか代りの出席日を決める必要があるためである。県の教育委員会でも代わりの出席日を設けたらオリンピック休暇をとってもよいという許しがあり、あとは具体的な案を出して決議するのみである。臨時休暇について生徒間に約八百名にアンケートを取って見ると大部分が賛成の意向を見せているし、先生方にも賛成の意向が強い。

アンケートの結果は、

臨時休暇を設けること

賛成	六六・六%
反対	二四・九%
どちらでもよい	八・五%

これで分るように、生徒の大部分がオリンピックに対し強い興味を持っている。

賛成のおもな理由として、見に行くとか、テレビで見たいという意見が大部分をしめ、その他、「長すぎる夏休みを削って代りの休暇をとることは合理的。中に休暇があることは、休養や、勉強の整理をすることができる。というようなものがあった。反対の理由として、テレビで見ることができるから、休みがけずられるから、まとまった休みの方がよいなどが大部分で、あとは、秩序がみだれる、オリンピック、オリンピックとさわぐ必要がないというようなものがあった。反対の理由としてテレビで見ることができるというのがあるが、これはテレビを見る時間をどうするかという点で問題がある。

休暇の日数について

五日	九・五%
一週間	四六・三%
十日	三八・二%
二週間	六・〇%

学校案は五日ないし一週間というのであったが、生徒の側では一週間ないし十日の休暇を望んでいる。二週間というのはオリンピックの全期間中ということである。

代りの登校日

夏休みの初め	五三・九%
〃　終り	二八・四%
休、祭日から	八・八%
その他	八・九%

その他の中には、水・土を六時間とする、八月中旬というようなものがあった。

高崎先生

個展開かれる

去る十一月二十四日から、東京銀座の櫟画廊で行なわれていた高崎先生の個展は二十九日、好評のうちに終了した。

十一月九日、十日の両日は帯屋町の笛画廊でリハーサルが行なわれた。

高崎先生談

現在地方でいいといわれている作品でも、東京などに持って行くと地方のものだからというので、あまり認められない。僕はそういうことに対してたいへん不満を感じる。だから、地方の画家の実力をわかってもらうためにこのような個展を開いている。この個展はもう五回になるが、死ぬまで毎年続けたいと思っている。

声

先生よベルと共に去れ!

先生方はよく「ベルがなったら教室に入れ、時間を守れ」という。だがあなたがた先生は時間を守っているだろうか。確かに一人や二人、キチンキチンと守っているようだが、大部分はそうではない。生徒がよく遠出にでかけて、遅れた場合「ベルがなる二分くらい前には帰らないかん」という。だが時計を持っている比率は、生徒より先生において大のはずだ。

まあ始めの時間はさておき、問題は終りの時間である。ベルがなればすぐやめてほしい。そうでなければ休み時間の意義は全くうしなわれる。ある先生が「休み時間は、予習・復習するためにある」といったそうだが、虚言も甚だしい。一時間親身をいれて授業にうちこんだ後の休み時間、これほどすばらしいものはない。それを休み時間になっても、予定の所まで進まないのか、未練たらしくズルズルベッタリ延長していく。まことにみっともない。みられたものではない。またこういう時間にかぎって大事なことをいう。ベルがなってから、生徒が一身に授業にうちこめるはずがない。

ある時、甚だヒドイので一生徒が注意をした。その先生「わかっちゅう」と答え、逆にその生徒に質問しかえした。その生徒「え答えず」である。その先生、「ベルが聞えて私の声が聞こえんか」あったりまえである。外はガヤガヤ気はうつる。なんで先生の声が聞こえようか。

まあ土佐には、ベルを無視する先生が多すぎる。これを一個人の不満の声と思われては困る。校長先生あたりが、職員会でとりあげてはいかがですか。（高一M）

国体見聞記

高一　佐竹真一

十月二十五日から三十日まで、土佐高を代表して、山口県で行われた第十八回国体を視察してきた私は三十一日早朝、高知駅についた。大変疲れてはいたが、一つの事を成し終えた満足感があった。

視察団は、抽選で選ばれた県下の五つの高校の代表、五人と引率の先生計六名よりなり、二十五日午後六時、選手とともに高知を出発した。

視察団が小郡から秋芳台を回って、山口市に着いたのは、二十六日の午後遅くであった。宿は「お多福」といい、混泊する一般選手とは異って、県選手団本部と同じ宿であった。夕食後、五人の視察員はお互いの様子等を話しあって意気投合した。

二十七日は午前中、山口市内の会場を視察し、開会式前に行われる公開演技（デモンストレーション）が見られるよう、十一時前に山口県営陸上競技場に着いた。

私達が着いた時は、会場はもう満員であった。午前七時の開門と同時に入った人もかなりいたそうだ。私達が招待席に着いた時は、もう公開演技が始っていた。最初は小中学校生徒約三千人による鼓笛パレードで題して、「ひびけ山口」その次は高校女子九百人によるマスゲーム、「五輪讃歌」と続き、入場行進のための曲を演奏する県内中高生徒・自衛隊・警察本部計七三三名のブラスバンドが入場してきた。最初の太鼓の音が、会場一杯にひびきわたった時、わたしは余りの感激に涙がでそうになった。

その後の開会式にも、私は驚かされた。時間が予定の通り正確に進められていくのだ。オリンピックの開会式を担当する人が、指示しているそうだ。来年のオリンピックも、この調子でやれるだろう。

役員選手が、私達のいる正面本部前を通る時と、天皇陛下のいらっしゃる席の前を通るときに、一せいに右手を掲げるのが、印象に残った。整列を終えて、開会宣言を山口県知事が行い、ファンファーレが流れる時、四十七都道府県の代表の色とりどりの服が、帯になって並んであざやかだった。

国旗掲揚、文部大臣のあいさつ陛の言下葉、選手宣誓等が行われ堂々開会式は終了した。

開会式後の公開演技は、式前のものよりも充実していた。特に、民謡をとりいれた婦人達の「長州よいとこ」というマスゲームは、表裏色の異った扇をパッパッと、向きをかえるもので、ちょっと変った感じのマスゲームだった。

友愛・奉仕・躍進の三つのスローガンのもとにくり広げられた山口国体の、最初の行事であるこの開会式は、まことに立派なもであった。

開会式の翌日、私達はバスで萩に向い、優勝した剣道の応援をした。その夜は県の剣道選手と同じ宿で泊ったが、優勝したうれしさが高知県関係の人達にとどまらず、みんなに一杯であった。

二十九日は、長門・下関の各会場を回って宇部へいった。宇部でははじめて案内の人がえられ、とても親切にしていただき、有効に時間を使うことができた。種目は庭球・バレー・水泳・ラグビー・バスケットとかなりあり駆け足ではあったが、非常におもしろかった。その日のうちに汽車に乗り、帰途についた。高知駅についたのは、三十一日の午前四時だった。

最後に、私達が降りた駅には案内所というものがあって、そこに行けば、一切の世話をしてくれるようになっていたり、民泊する選手の出迎えのために、真白いエプロンの婦人達が山口市に限らず、どこでも駅にきてくれていた。国旗や、国体旗・歓迎をあらわすたれ幕や塔・旅館の女中さん達の行届いた世話、私は良いところばかり見てきたようだが、記憶にはそれだけしか残っていない。

高校時代にこのような経験ができて私は幸福だと思っている。私を援助して下さった校長先生推薦して下さった前期会長、良いアドバイスを与えて下さった先生方に感謝して、ペンを擱く。

▽▽▽▽

筆者の佐竹真一（一〇）君は県の国体視察団の本校代表として、国体を視察してきたもの。

パイロット、セーラー、プラチナ
特選、ニューマン、舶来等
メーカー品の豊富な
高知大丸
高知 京町 電②5111
万年筆売場

紳士服装センター
土佐高制服オーバー指定店
廣松屋
高知大丸北口前
TEL ②2338 ②1527

サンゴはぜいたく品ではありません りっぱな工芸品です
土佐の名産サンゴにカツオと全国に知られています
土佐名産サンゴと装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目
TEL ② 0358

高知一の定評　うまい鮨は
菊寿し
電話 ②3366 ③3030
お二階も一般席ですので お気軽に御利用下さい